

平成 30 年度

平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日

事業報告書

学校法人 野上学園

1. 法人の概要

(1)建学の精神

本学園の建学の精神は「如何なる時も凡事徹底」です。この精神は学園が設置する全ての教育機関に受け継がれ、学生教育の柱となっています。

また本学は「動物」を学ぶことを目的とした教育機関を設置していることもあり、「動物から生きる知恵を学ぶ」ことを使命とし、「喜びを与える人であれ」を教育理念として、ヒトと動物が共に暮らせる社会を目指した人材育成を行なっています。

(2)沿革

法人設立年月日

平成 19 年 9 月 25 日

学校設置年月日

ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校設置 平成 20 年 4 月 1 日

神戸ブレーメン動物専門学校設置 平成 24 年 4 月 1 日

東京ブレーメン動物専門学校設置 平成 29 年 4 月 1 日

ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校 学校名変更

ブレーメン動物専門学校 平成 31 年 4 月 1 日

(3)設置学校

- ・ブレーメン動物専門学校 ペットビジネス学科／ペットマイスター学科

所在地：徳島県徳島市

- ・神戸ブレーメン動物専門学校 ペットビジネス学科

所在地：兵庫県神戸市

- ・東京ブレーメン動物専門学校 ペットビジネス学科

所在地：東京都北区

(4)学生数

平成 31 年 5 月 1 日現在

ブレイメン動物専門学校

学 科	入学 定員	収容 定員	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
ペットビジネス学科	35	70	45	40			85
ペットマイスター学科	5	20			1	7	8

神戸ブレイメン動物専門学校

学 科	入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	合計
ペットビジネス学科	40	80	54	52	106

東京ブレイメン動物専門学校

学 科	入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	合計
ペットビジネス学科	40	80	22	11	33

(5)教職員数

平成 31 年 5 月 1 日現在

ブレイメン動物専門学校

教員数（本務）	教員数（兼務）	教員合計	職員数（本務）	職員合計
6	4	10	1	1

神戸ブレイメン動物専門学校

教員数（本務）	教員数（兼務）	教員合計	職員数（本務）	職員合計
6	12	18	2	2

東京ブレイメン動物専門学校

教員数（本務）	教員数（兼務）	教員合計	職員数（本務）	職員合計
6	4	10	1	1

(6)役員・評議員概要

平成 31 年 5 月 1 日現在

[定数] 理事 5 監事 2 評議員 11

職 名	氏 名	任 期	備考
理 事 長	野上 耕一	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	
理 事	野上 和子	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	
理 事	和田 信彦	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	外部理事
理 事	内藤 榮	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	外部理事
理 事	豊實 祐之	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	
監 事	高橋 諭	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	
監 事	園田 貴彦	平成 29 年 9 月～令和元年 9 月	

職 名	氏 名	任 期
評 議 員	野上 耕一	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	野上 和子	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	和田 信彦	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	内藤 榮	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	豊實 祐之	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	鈴木 泰宣	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	矢野 章太	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	松村 直子	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	呉 靖子	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	小松 敏之	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月
評 議 員	平木 彰子	平成 29 年 10 月～令和元年 10 月

2. 事業の概要

①事業概要

学校法人野上学園は専修学校（専門課程）3校を有する。東京ブレイメン動物専門学校が開校2年目となり、教育内容・設備の充実、学生募集の改善をはかり、グループ校全体での連携を向上させ、学生教育活動をより充実させることを目的とする。

(1)学生募集活動

今年度の学生募集は、法人全体として前年比170%を達成した。要因としてブレイメン愛犬クリエイティブ専門学校の募集状況が大幅に改善したことに加え、東京ブレイメン動物専門学校が開校2年目となり、認知度の向上により募集数の伸びが顕著であったことがあげられる。今後も連携授業や地域活動を組み入れるなどの様々な取り組みを行い、地域の業界との連携を密に図り、幅広いターゲットを明確にした対応を短期・中期・長期的な視野から広報サイクルの展開を図っていくことが重要となる。

(2)教育活動

教育理念である喜びを与える人であれを実践し、学生一人一人を大切にすることで、学びである動物と人間のよりよい共生社会を目指すことを継続する。

学生が就職後、即戦力となることを主旨とし、動物が本来もっている性質や機能を深く理解することで、日々変化し続ける社会に対して柔軟な対応ができる人材を育成する。

動物を観察し、観察力をつけることで人間社会に必要な「コミュニケーション能力」の向上を図り、マナーや道徳心をもった社会人として貢献できる人材を育成することを目指す。

また学生に対して、各種スキル・知識の取得対策を充実させるとともに、心身のケア支援、生活習慣に関する指導を改善し、学生生活全体の支援体制を整える取り組みを行う

i 授業計画書作成方針

カリキュラムの基本編成を基に各教科担当教員が年間の授業予定を定め、各科目の記載項目についての詳細な編成を進める。

授業の目的、到達目標、授業内容・方法、年間スケジュール、成績評価方法・基準等を設定し、学生が各授業科目の学習準備を進めるための基本となるものとする。また、選択科目においては、授業選択の参考となる資料になるものとし、自己評価や学生による授業評価等にも利用できるものとする。

年度毎に内容の見直しは行われ、新たな学術研究の結果を取り入れ、学習内容の質向上を図る。

ii 成績評価の方針

授業科目の成績評価は、上位より優（100～90点）、良（89～80点）、可（79点～60点）、不可（59点以下）の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。

前項の規定にかかわらず、授業科目によっては、教育的効果等を考慮し、成績評価をP（Pass、合格）、N（Non-pass、不合格）で表示することが出来るものとする。

成績評価による学業結果のうち、評定平均値を用いて学業成績を総合的に判断する指標とする。

iii 卒業認定の方針

本学の理念である「喜びを与える人であれ」の精神を理解し、「如何なる時も凡事徹底」が、生涯にわたる基盤となるよう身に付いている。

主体的、自主的、能動的な姿勢が身に付き一定の思考力、判断力、表現力を獲得している。

動物分野の基礎学問を身につけ、動物から生きる知恵を学ぶことが出来る。

授業科目の成績評価に基づき、学校長が課程修了の認定を行う。

(4)組織体制

今後の私学経営を取り巻く厳しい環境に対応していくため、次世代の管理者を育成し教育と経営の両面でバランスの取れた人材を適材適所に配置していくことが急務であり、教職員研修や指導体制を整えて組織力を強化していく。

②事業計画及び進捗状況

(1)教育研究の取り組み

実践型教育をこれまで以上に充実させるために、企業との連携をより推進している。動物産業だけでなく、他分野の産業界との連携を活発に行い、特定の業種のみの特化した教育だけではなく、時代に対応できる社会人を育成することを重視する。

昨年度の東京ブレイメン動物専門学校の開校により、学園全体としてより幅広い地域での教育活動が行える地盤が出来つつあり、様々な地域企業との連携が可能となった。

また、国内だけでなく、海外の教育施設、企業との交流を進めてきたが、これまでのアジア圏だけでなく、アメリカ・カリフォルニア州のモアパークカレッジとの正式な提携を締結した事から、より国際的な観点での交流も増加している。

平成 30 年度はアメリカ・カリフォルニア州で、イギリスでの学生研修を実施し、成果を出している。

(2)教職員の質向上

教職員は近年の多様化した社会、動物産業の多彩なペットビジネスサービスのニーズに対応する為に必要な知識・技術を習得することが必要となる。国内外を問わず、連携企業・学校への研修・セミナーを定期的に行い、教職員の資質・能力の向上と意識改革を進める。

専門分野における実務に関する研修実績として、海外提携大学モアパークカレッジでの飼育学研修、動物愛護及び管理に関する法律に関連した研修会への参加、日本臨

床獣医師会フォーラムでの動物看護等研修プログラムの受講を実施。

指導力向上の為の研修として、フリーアナウンサーを講師に招き、定期的な話し方のセミナーを開催、専修学校各種学校連合会主催の教職員セミナーへの参加実績がある。

(3)施設関係

平成 31 年度よりブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校の名称を、ブレーメン動物専門学校とする。名称変更に伴い、校舎関係の改修を計画。

平成 31 年 3 月に計画に基づいた改修工事を完了。

③施設等の状況

設置学校の校舎所在地

- ・ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校

1 号館 徳島県徳島市佐古一番町 5 番 4 号

2 号館 徳島県徳島市佐古一番町 19 番 1 号

- ・神戸ブレーメン動物専門学校

兵庫県神戸市中央区布引町 2 丁目 1 番 1 7 号

- ・東京ブレーメン動物専門学校

東京都北区滝野川 7 丁目 3 9 番 1 4 号

3. 財務の概要

(1)平成 30 年度決算概要

①貸借対照表の状況

平成 30 年度決算においては、総資産額は前年度より 106 百万円増加、総負債額は 29 百万円増加した。総資産額は固定資産が増加したものに寄与する。

②収支計算書の状況

平成 30 年度決算においては、経常収支差額が 24 百万円増加した。東京ブレーメン動物専門学校が開校 2 年目を迎えて学生数が増加したことや、ブレーメン愛犬クリエイティブ専門学校の学生募集状況が改善されたことで、学生生徒納付金収入が伸びたことや、同時に収益事業収入も大幅に伸びたことが要因となる。

(2)経年比較

①貸借対照表

(単位：千円)

科 目	28 年度	29 年度	30 年度
固定資産	500,644	496,522	591,870
流動資産	179,902	248,747	259,854
資産の部合計	680,547	745,270	851,724
固定負債	126,425	118,924	114,845
流動負債	119,936	142,977	175,615
負債の部合計	246,361	261,801	290,460
基本金	393,327	406,345	516,327
繰越収支差額	40,857	77,123	44,936
純資産の部合計	434,185	483,468	561,264
負債及び純資産の部合計	680,547	745,270	851,724

②収支計算書

i 資金収支計算書 (単位：千円)

科 目	28 年度	29 年度	30 年度
学生生徒納付金収入	138,130	135,460	158,635
手数料収入	240	195	262
寄付金収入	0	0	4,000
補助金収入	2,843	2,226	2,243
資産売却収入	10,292	0	0
付帯事業・収益事業収入	37,998	44,721	61,211
受取利息・配当金収入	3	4	5
雑収入	486	1,426	487
借入金等収入	50,000	0	0
前受金収入	110,599	133,021	164,875
その他の収入	10,787	15,253	17,459
資金収入調整勘定	△110,435	△110,599	△133,922
前年度繰越支払資金	171,616	179,877	248,747
収入の部合計	422,561	401,587	524,004

科 目	28 年度	29 年度	30 年度
人件費支出	66,470	87,017	91,387
教育研究経費支出	9,272	15,517	11,934
管理経費支出	26,406	21,757	33,555
借入金等利息支出	631	602	563

借入金等返済支出	6,708	7,293	7,956
施設関係支出	122,101	0	97,382
設備関係支出	1,374	5,724	9,553
資産運用支出	1	10	0
その他の支出	10,539	15,537	18,302
資金支出調整勘定	△822	△618	5,5576
翌年度繰越支払資金	179,877	248,747	258,952
支出の部合計	422,561	401,587	524,004

ii 事業活動収支計算書（単位：千円）

科 目	28 年度	29 年度	30 年度
学生生徒等納付金	133,130	135,460	158,635
手数料	240	195	262
寄付金	0	0	0
経常費等補助金	2,843	2,226	2,243
付随事業収入	37,998	44,721	61,221
雑収入	486	1,146	487
教育活動収入計	179,698	184,028	222,839
人件費	66,470	87,017	91,378
教育研究経費	13,409	25,373	22,212
管理経費	26,406	21,757	34,894
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	106,286	134,148	148,485
教育活動収支差額	73,412	49,880	74,353

受取利息	3	4	5
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	3	4	5
借入金等利息	631	602	563
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	631	602	563
教育活動外収支差額	△628	△597	△558
経常収支差額	72,783	49,283	73,795
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	0	0	4,000
特別収入計	0	0	4,000
資産処分差額	0	0	0
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	0	0	0
特別収支差額	0	0	4,000
[予備費]	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	72,783	49,283	77,795
基本金組入額合計	△80,184	△13,017	△109,981
当年度収支差額	△7,400	36,265	△32,186
前年度繰越収支差額	48,258	40,857	77,123
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	40,857	77,123	44,936